

# 『福祉のまち、よこすか』をめざして

あなたが毎日働いているのは、大切な家族や暮らしを守るためだと思います。上司や部下との人間関係、夜中までの残業、遠くまでの通勤電車。そんなストレスに耐えてやっと手に入るのが、大切なあなたのお給料のはず。そのお給料が、税金として取られて、もしもムダづかいをされていたら、あなたはどうしますか？ しかもこのまちには、すさまじい借金があります。その金額は、3000億円にもなります。つまり、43万人全てが1人あたり75万8000円も借金を背負わされているんです。あなたはこのままで良いと思いますか？ 僕は、絶対に許せない。そして僕は、このまちの福祉をもっと良くするために政治家になりました。だから福祉を守るためにも、これ以上のムダづかいをすべてカットします。絶対に。絶対に。

美術館に反対の声も  
横須賀市議会

横須賀市議会は三十日開会し、一般質問で新人の藤野英明議員(無所属)は、市が観音崎公園で進めている美術館建設計画について、「先行き不透明な財政状況下、特定少数の人々の希望が反映された自然破壊の計画」などと許難に反対する質問をした。これに対し、沢田秀男市長は「美術館は公園施設の一部で、自然と共生して付加価値が高まる」と答弁した。

## 新人パワフルに市長。お手上げ

「なぜ美術館にだけ反対するのか分からない」。改選後初めての定例会となる横須賀市議会六月定例会が三十日、始まった。初日は五氏が一般質問に立ったが、がぜん盛り上がりがあったのが藤野英明氏(無所属)との市美術館(仮称)建設をめぐる論戦。四十歳も離れた新人議員の迫及に、沢田秀男市長も最後はお手上げの状態で終わった。

### 横須賀市議会 定例会

定例会に立候補し、五十六人中四番目に多い得票で初当選した。「美しい自然こそが横須賀らしさだと市民は考えている」と、観音崎公園に二〇〇七年度中の開館を目指している美術館建設の見直しを迫ったのに対し、沢田市長は「私も同感だが、人と自然との共存共栄を図ることも大事。前市長時代から収蔵していた作品を、市民共有の財産として見られるようにするのが

### 美術館問題で激論

目標だ」と応じた。藤野氏は市民アンケートの有効性や市政への影響など、さまざまな観点から美術館建設の問題点を指摘した上で、建設反対の署名運動を展開することも表明。沢田市長は「なかなか議論がかみ合わない。今度じっくりひざを突き合せましょう」と答え、議論を締めくくった。(佐藤 浩幸)

### 1年生 市議 建設反対公約に4位当選

4月の改選後、初めての横須賀市議会本会議が30日、開かれた。初当選した無所属の藤野英明氏(29)が一般質問に立ち、市の美術館建設中止を求めて、沢田秀男市長(69)を相手に熱弁を振るった。沢田市長も事前に用意した答弁を流しをよめてやり返し、熱い議論に傍聴席が沸いた。茶髪にスーツ姿で現れた藤野氏が問題提起したのは、市制施行100周年記念事業として07年に開館する予定の観音崎公園内の美術館建設計画「はかの課題が山積みする中、美術館建設にこたわる理由がない」と大きなジェスチャーを取り、傍聴席沸く横須賀市議会。ヤ一を交え熱弁を振るった。沢田市長が「市収蔵の美術品は市民の共有の財産。鑑賞の場を設けたい」と答弁すると藤野氏は再び手を挙げ、「建設反対を公約に4967票を得て、定数45の市議選で第4位となった」と市長をにらんだ。すると今度は沢田市長が「私は美術館建設を公約した市長選挙で9万人の支持を得た」と反論した。結局、平行線のまま論戦は終了。それでも傍聴人や、庁内のテレビ放送をみた市議員からは「新しい風が吹き始めた」「久々の熱戦で楽しかった」とどの声も聞かれた。

### 美術館建設で舌戦 横須賀市議会

横須賀市が市制100周年事業として07年開館を目標とする「美術館建設」を巡り、30日開会の同市議会で年輪差40歳の、美術館争いが展開された。美術館は国立観音崎公園の中に建設予定で、市開設準備室によれば、既に郷土の画家らの寄贈作1000点、購入作1800点を収蔵している。この日の市議会では、初当選の藤野英明議員(29)「無所属」が「財政難の折、建設費45億円、維持管理の赤字が毎年3億円も出る。この巨額な金は福祉に使ってほしい」とたたかった。沢田秀男市長(69)は「アンケートでも建設を

あなたはこのまちに本当は何を望んでいますか？

## 6月15日(日)から 署名をはじめます！

# www.hide-fujino.com

望む声が多く、市民への約束だ。美術館が福祉かど二者択一ではなく、全体の中で考えるもの。本物の美術に感動するのは素晴らしい」と答弁。さらに、「私は市長選で建設を公約に9万票取った。美術哲学を持ってから批判せよ」とやり返したところ、藤野議員は「6月に反対の署名運動を始めよう。9万人以上を集める」と質問を締めくくった。

論戦は1時間余にわたって、2人の応酬に議員たちだけでなく、傍聴席からも双方に拍手、時に爆笑が起きた。同準備室は「署名運動のような具体的な反対行動は初めて」という。【網谷利一郎】

Eメール mail@hide-fujino.com  
電話番号 070(5372)1881